

(別紙1)《会派用》

令和6年7月22日

狹山市議会議長

太 田 博 希 様

会 派 名 健政会

代表者氏名 町 田 昌 弘



視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

代 表 者 町田 昌弘 様

視察者（代表）氏名 豊泉 正人



視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 令和6年7月1日～ 令和6年7月2日（1泊2日）
- 2 視 察 先

..... (1) 秋田県大仙市（花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」）

..... (2) 山形県酒田市（酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」）

3 調 査 事 項

..... (1) 大仙市の花火産業への取り組みやまちづくりの状況について

..... (2) ミライニにおける図書館や観光協会の運営方法や利用状況について

4 視察参加人数 8人

参加者は次のとおり

..... 太田博希、笹本英輔、酒井英男、豊泉正人

..... 福田 正、千葉良秋、町田昌弘、三浦和也

5 調 査 概 要

..... 別紙のとおり

(別 添)

調 査 概 要

I 秋田県大仙市

人口約 74,000 人（令和 6 年 5 月末日現在）

大仙市は、2005（平成 17）年 3 月 22 日に大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の 1 市 6 町 1 村が合併し誕生した。秋田県の内陸南部に位置し、東に奥羽山脈、西に出羽（笹森）丘陵が縦走、その間を流れる雄物川とその支流である玉川に沿った農村地帯が四季折々に美しい表情を見せる自然豊かな田園都市で、米の収穫量は国内屈指。水稻を中心に、水田の畑利用による大豆等の土地利用型作物のほか、枝豆やアスパラガス等を組み合わせた複合営農が行われている。秋田新幹線や



秋田自動車道等の高速交通体系が整備され、秋田空港も至近にあるなど、多彩な交流が可能な立地となっており、県南の交通の要衝となっている。毎年 8 月最終土曜日に開催される日本最高峰の全国花火競技大会「大曲の花火」をはじめ毎月花火大会が行われるほか、国重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」や国指定史跡「払田柵跡」、国指定名勝「旧池田氏庭園」など地域に伝わる伝統や文化、歴史といった魅力が息づいている。

◆視察の目的

長かったコロナ禍が明け、全国各地で花火大会が復活している。一方で、花火による事故や燃えカスなどの環境汚染として問題視され中止となる自治体も急増している。日本の夏を象徴する花火は夏の風物詩であり、これからもこの伝統行事を守っていきたい。そこで、全国花火大会ランキング 1 位とされる「大曲の花火」を運営している大仙市を訪問し、産業としての花火の取り組みや、花火そのものの歴史や技術・大会運営方法などについて学ぶ事とした。担当部署である大仙市経済産業部花火産業推進課が、今年 4 月 1 日から花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」に移転したこともあり、併せて資料館の視察もおこなわせていただく。

◆視察日・場所

2024 年 7 月 1 日（月）

秋田県大仙市大曲大町 7-1 9

花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」

◆視察内容（花火伝統文化継承資料館）

花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」の館内視察では、花火の歴史や実際の花火（模型）による種類や大きさや重さ、花火の作り方、打ち上げの仕組みの模型、花火シアター等で花火の全般について基本的な知識を深める事ができた。

※視察および質疑等は主に大仙市役所経済産業部の方々にご対応いただいた。

◆大曲の花火を核としたまちづくりについて

花火が経済産業部にある、観光と別にされている。花火を核としたまちづくりにしており、組織運営的にはそのような位置づけとなっている。100年以上前、大曲の花火第一回大会が起こったときには、煙火協議会として奥羽6県で行われ、現在で96回を数える歴史がある。花火大会ではなく、花火競技会であり、コンテストである。全校から28の名だたる花火の技術を競う。昼花火と夜花火、創造花火などがある。最高賞としては、2000年から内閣総理大臣賞が授与される。5年に1回入れ替え戦があり、100回大会に向けて、様々な準備を今から始めている。

◆質疑応答

問 花火産業構想を創生戦略内に位置付けた経緯は。

答 花火産業構想は、大仙市地方創生第一の矢として平成26年3月に策定された。市が誇る日本最高峰の花火競技大会、「大曲の花火」が有するブランド力を最大限活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育など様々な分野にまたがる発展軸を形成して地域を元気にしようとするこれまでにない新たな概念の産業振興方策を示すものであり、平成28年3月に策定された大仙市

まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも「地域資源を活かす産業の振興」の一つとして位置づけられた。



問 花火を核としたまちづくり、地域づくりの状況は。

答 花火産業構想では、花火創造産業の設立や花火伝統継承資料館はなび・アムの建設、国際花火シンポジウムの誘致開催、四季の「大曲の花火」開催などが実施された。国際花火シンポジウムでは、日本を含む 38 の国、地域から 449 人の参加があり、実行委員会スタッフに加え、市民ボランティア 580 人にもお手伝い頂き、オール大仙でのおもてなしを実現している。

問 花火関連の新産業創出の状況は。

答 花火産業構想により設立された花火創造企業では、国内屈指の花火製造技術を活用し、輸入が大きな割合を占める 5 号以下の小型花火玉製造、国内花火会社への販売を行っており、令和 5 年度では約 5 万 1 千発を出荷している。また、花火の原料の一つでもあるマツ炭について、県産木材を使用して製造、販売を行う事業にも取り組んでおり、令和 5 年度で約 8 百万の出荷額になっている。

問 市内の花火に対する意識の地域格差はあるか。

答 大仙市は 8 つの市町村合併により誕生し、旧大曲市で開催されていたもので、ひとつによってはまだ花火は大曲のもの、という意識があるところもある。しかし、若い世代に旧市町村単位の境界意識も希薄になりつつあることから、花火に対する地域格差は少なくなっている。

問 インバウンドに関して、宿泊施設が必要となるが、どれくらいの収容数があるのか。経済的な効果はどれくらいあるのか。

答 宿泊者数 1800 名程度の受け入れとなっている。今後、さらに宿泊施設を建設中であり、1900 名程度を受けられる予定。花火競技大会に来場した公称 80 万人から算出し、経済波及効果は 150 億円となっている。

問 花火の打ち上げ会場は市街地にあり、花火からのゴミで火災や苦情などは。

答 会場付近には住宅も多くなく、住宅が少ない。河川敷なので燃えたものが落ちてもよいように草刈りや水撒きを大会前に行っている。秋田県の中では厳しい保安距離をとっている。(1.6km)。当日も救急車両を用意している。昼花火は煙に着色して(顔料)打ち上げるものだが、それが家屋や車両などに塗布されてしまうケースがある。花火打ち上げに関するごみは花火会社が責任をもって対応している。観覧者によるごみは、翌日にゴミ拾いの業務委託を行っている。町内会の活動として翌日のごみ拾いを行っているところも

ある。また、事前事後に近隣住民のもとに挨拶活動を行っていることもある。

問 実行委員会の組織内容は。

答 大会実行委員会の組織は商工会議所会頭を会長とする構成になっている。市役所は部会の一部を構成し、駐車場や安全、広報などを担っている。警察、消防、JR、東北電力、NEXCO など、大会に関わる情報共有を密に行っている。

問 こうした大会を 96 回にわたり開催し続けてきた予算付けは。



答 夏の大会に限っていえば、ゼロである。年間の小さな大会を合わせると、年間で 3000 万円程度である、地域づくりには非常に効果的と考えている。長岡の花火大会であれば、運営はほとんど大企業による寄付が行われている。土浦の花火は 8 割くらいが市の予算が入っている。大曲の花火は 8 割くらいが観覧席の売り上げによるもの。市民の絆作りという点では、市内の小学生を秋の大会に無料招待し、自分のまちの誇りであるシビックプライド（愛郷心）、世界に誇れるものがあるという心を育みたいと考えている。花火に対する心というのは小さなころから育てられている。また、これには花火師さんを大切にするまちであったからこそ続けてこられたと考える。全国から集まってくる煙火業者が大会を作り上げている。花火師さんたちが最高の作品を持ち寄るから大会が成功するのだ、という気持ちを大切にしている。一時不況で運営予算が厳しくなったとき、大曲では逆に花火師さん達に対するお礼を増額することや、毎回の大会で早朝から花火師さんたちを会長はじめ歓迎のあいさつをもって受け入れるようにしている。

問 花火について、他の市町村と連携するような計画はあるか。また、そうした計画を検討する可能性は。広報は。

答 近隣市町村との連携については、協定を結んだりしていない。大仙市内だけでさばける数ではないので、隣県にも波及するところがある。良い影響がそちらにもでているのではないかと受け止めている。大都市圏への広報については、オーバーツーリズムを感じているところもあるが、春や秋についてはまだまだ来ていただきたいと考えており、PR をしていきたいと考えている。

問 閑散期などに大曲の花火を狭山に紹介して頂ける可能性は。

答 能代市に大曲の花火をプロデュースしている。企画運営を提供している。また、宮崎県宮崎市との交流がある。(有縁交流都市)花火創造企業の中に、煙火組合に相談したり、市に相談して頂けるとよいと考える。花火鑑賞士という資格が大曲花火クラブというNPOから認定される資格があり、10月に花火鑑賞士認定試験というものがあり、全国に1300名いる。大曲の花火を観に来るお客さんにレクチャーして下さる。自発的にガイドをする方も育っている。

問 観覧席はどのような設置状況か。

答 コロナ禍後はベンチを置いたりテーブルを置いたりするなど、すぐに設置撤去できるようなものに替えている。

問 敷席を有料化することについての考えや取扱いは。

答 花火公園という市が管理運営しているところでやっているの、自由度が高い。

Ⅱ 山形県酒田市

人口約 95,000 人（令和 6 年 5 月末日現在）。酒田市は、山形県の北西部、庄内地方の北部に位置する。北に出羽富士「鳥海山」、南に古からの信仰の山「出羽三山」を望み、山形県の母なる川「最上川」が肥沃な「庄内平野」を育み、西の「日本海」に注ぐ。豊かな土壌と日本海の海の幸に恵まれた日本有数の米どころで、庄内米や地酒も全国的に知られている。



2005 年（平成 17 年）11 月 1 日、港湾都市として発展してきた酒田市、鳥海山の自然に富んだ八幡町、出羽松山藩の城下町の歴史と文化が薫る松山町、緑と水にあふれ里山の姿を残す平田町の 1 市 3 町が合併し、「酒田市」が誕生した。酒田は、古くから日本海の海上交易と最上川の舟運の要として発展し、開港から 500 年を迎えた「酒田港」は、江戸時代に米どころ庄内と天下の台所・大坂を結ぶ北前船が往来する物流の拠点となり、その繁栄ぶりは「西の堺、東の酒田」とも謳われた。商業活動が活発になり豪商が次々と出現。華やかで自由闊達な湊町文化が形成され、現在も上方との交流のなごりが言葉や食べ物、文化の中に残る。

また、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」と謳われた酒田の豪商、本間家。その中興の祖として知られる三代当主光丘（1733 年～1801 年）は、数々の公共事業を通して酒田の発展に尽くした。その偉業のひとつが、多くの私財を投じ市民らと力を合わせて行った酒田西浜への防砂林の植林事業であり、飛砂の害から人々の暮らしを守っただけでなく、海岸沿いに白砂青松の美観をもたらした。光丘から受け継いできた「公益の心」は、人々に深く浸透している。2001 年（平成 13 年）には全国初の「公益学」を学ぶ大学として東北公益文科大学が開学し、世代を超えて学び合い交流することで、活力あふれる「公益のまちづくり」を官民学が一体となって進めている。

◆視察目的

山形県酒田市では、駅前に地域交流拠点施設「ミライニ」が令和 2 年 11 月にオープンした。ここでは駅前再開発に伴うホテルやレストランなどの民間施設はもちろん、観光案内所や中央図書館、立体駐車場、バスベイが集約される。わがまち狭山でも公共施設等総合管理計画の中で、図書館の老朽化に伴う統廃合と建て替えが検討されていることから、まちづくりに有効な図書館の在り方について最新の傾向と状況を研究すべく、視察を行うに至った。

◆視察日・場所

2024 年 7 月 2 日 (火)

山形県酒田市幸町一丁目 10 番 1 号

酒田駅前交流拠点施設ミライニ

※視察および質疑等は、主に酒田市企画部都市デザイン課および酒田市教育委員会社会教育課の方々にご対応いただいた。

◆視察内容（ミライニ施設）

- ・市立中央図書館および観光案内所（主たる視察先として案内・説明を頂く）
- ・酒田駅前駐車場
- ・酒田駅前バス停留所
- ・ミライニ広場

※隣接商業施設としてホテル・レストラン・分譲マンションなども視察した。



その理由は

- ① 市の利用者の多い施設・・・3 位に中央公民館があった（年間 22 万人）
- ② 利用者が減ってきている
- ③ 既存施設が狭く本を収蔵できない
- ④ 民間施設と相性がよい（だれでも利用できる）

民間事業者による再開発が 2 回頓挫しており、市民からの注目も厚かったことから、公開プレゼンテーション審査を行った。また、パネル展も行うなど広く市民の意見を募った。この結果、平成 28 年 7 月、開発事業者が決定し、地権者との交渉が始まった。利用に係る市民ワークショップも複数回開催した。高校生大学生に限定したワークショップも行った。

○経過（事業着手）

光の湊株式会社の設立を行った。

西松建設㈱と酒田市が 50 万円ずつ出資して設立された会社。事業実施のための会社であり、利益は出ない。市の出資の理由は、①チェック機能②適債性の確保③県補助金の対象であった。この会社によって、地域との調整や発注を行うようになった。光の湊株式会社は事業終了とともに解散。

その後は酒田駅前まちづくりシンポジウムを行い、先進事例の紹介など周知・啓蒙活動を行った。H31 年から建築工事契約締結、着工がなされた。契約は西松建設㈱を中心とした JV により落札。

○施工

施工は段階的に施工された。ホテル事業者は営業を行っており、休業補償を支払わなければならないので、段階的に行った。①民家解体工事②ジャスコ跡地に A 棟建設③既存ビル解体、C 棟建築工事④B・C 棟建築工事

市民に愛着を持ってもらえるように、外壁アートなども併せて実施した。

全ての施設が完成したのが令和 4 年 7 月となり、同月末日にグランドオープンを行った。

○整備の概要

ジャスコ跡地と隣接街区、整備区域の合計は 1.4ha。



○資金計画

市負担総額 4,652 百万円—国庫補助金 1,107 百万円＝実質負担額 3,545 百万円

○ミライニの紹介

「ミライニ」

ロゴマークは本と船の舳先、若芽の芽吹き、鳥、灯台などのモチーフを一体化させたシンボル。東北芸術工科大学グラフィックデザイン科と連携して作成した。

○基本理念・方針

「知のアリーナ」 みんなの居場所

方針⇒学び、成長する場・交流する場・情報発信の場・子育ての場

○管理運営

教育委員会が所管（一括）

- ① 指揮系統一本化
- ② 事故の責任所在の明確化
- ③ 相乗効果を意識した一体的マネジメント

管理運営は指定管理者制度（TRC）

- ① 民間ノウハウの活用
- ② 民間でできることは民間で
- ③ 一体的な運営
- ④ 市の限られた資源を考慮

旧中央図書館と比較すると、年間 24 万人程度が目標であったが、現在は年間 40 万人程度を目標にしている。（R4, R5 達成）

図書館利用者カード登録者数も 2.4 倍をマークした。

図書館利用者層については、16 歳から 20 歳の層が 2.5 倍となった。ミライニの基本理念の通り、居場所になれたことが大きい。また、駅前の図書館となったことで、ビジネス世代の利用も増加した。

○開館時間と休館日

従来より 2 時間拡大した時間とし、（月曜から土曜日は 9 時から 21 時、日曜祝日は 9 時から 19 時。）定休日を新設し、施設のメンテナンスや職員の研修等に充てている。

○使用料等について

酒田駅前駐車場

24 時間以内は上限 1000 円、110 円／30 分とし、月極利用をマンション住民に限り月 11,000 円としている。

その他に、コインロッカー、研修室、広場（占用利用の場合）がある。

○図書館の枠組みを広げる新しい取組み

未来にかける ThreeAction と銘打ち、様々なイベントを行っている。



◆質疑応答

問 現在までのミライニの利用状況は。

答 令和4年度 296日 482,932人。令和5年度 329日 496,573人。

問 公共施設としての利用料減免などの制度は。

答 研修室、駐車場、広場など規定に従って利用料の減免を行っている。

問 交流拠点施設として、どのような内容（世代）で市民交流がなされているのか。

答 乳幼児、子育て世代、小中高生、一般の方が集って交流できる仕組みづくりを行っている。

問 ミライニ建設後の市内外での波及効果は。

答 事業の効果として、駅前の通行量が急激に上昇傾向にあり、酒田駅前の地価公示価格は平成28年の再開発事業の決定以降、上昇トレンドにある。

問 市民から寄せられる意見等は。

答

（ポジティブなもの）

読書をするようになった、外出する機会が増えた、自分の居場所ができた、スタッフの対応が良い、快適で過ごしやすい、ベビーカーがある など

指定管理移行後、イベントが増えて工夫を感じている。

（ネガティブなもの）

駐車場が有料、にぎやかすぎてうるさい、館外に返却ポストがない、専門分野の本が少ない、混雑時に座れない など

（要望）

無料駐車場が欲しい、コーヒーショップが欲しい など



問 全国の自治体で参考とした事例はあるか。

答 事前の視察で神奈川県の大和市、武蔵野市、岐阜市などを参考とした。

問 反省点はあるか。

答 事前の市民アンケートの中で欲しいと言われたのは温浴施設、二番目が商業施設であった。民間の温浴施設も撤退し、商業施設も撤退していたことから、市が整備するものとしては図書館を選定した。市民の一番の要望に応えることができなかった、という側面では反省材料としてとらえている。また、除外地とした地権者の方にも根気強く交渉したが、残念な結果となった。

問 子育て世代からの反響は。

答 子育て世代向けのイベントはたくさんあり、ブックスタート事業では3か月検診で2冊渡している。フォローアップでベビーハグ事業（毎回定員に達する）を行っている。子育てに関する有識者からの研修を行えるようになっている。また、毎週月曜日に45分間、保護者さんが自由に本を選べるようになっている。

問 世代間の分断はどのように解消を図っているか。

答 学習席はライト付きであり、そのスペースを使う傾向にある。新聞雑誌のエリアを高齢の方が使う傾向にある、大きな机はコンセントがない。2階席にはコンセントがある。